

令和5年度ヨコハマ市民まち普請事業 第101回部会 会議録

日時	令和5年7月9日(日)10:30～17:15
開催場所	横浜市役所アトリウム
出席者 【敬称略】	部会委員)杉崎部会長、朝比奈委員、植松委員、川原委員、後藤委員、肥後委員、松村委員、山田委員 事務局)横浜市:榊原、村瀬、安藤、古谷、石田、秋浦 市民セクターよこはま:加世田、伊吾田、清原 横浜市住宅供給公社:岡部、都出、佐藤、土屋、高橋
開催形態	公開 (YouTube での LIVE 配信含む)
議題	令和5年度ヨコハマ市民まち普請事業1次コンテスト 1 開会 2 整備提案の発表 3 審査員による情報収集タイムに向けたポイント整理 4 情報収集タイム 5 審査方法の説明 6 公開議論・質疑 7 公開投票及び結果発表 8 講評
決定事項	2次コンテスト対象提案として以下の提案を選考 【整備提案名】<提案グループ名> 1 【 <b>【知ることで安心 子どもの遊び場と防災】</b> 】 <ブルーベリーの丘 子どもと親が集い防災を考える会>(金沢区) 2 【 <b>【青葉台公園の多世代交流・多文化共生の拠点作り】</b> 】 <キノコみらいハウス設置委員会>(青葉区) 3 【 <b>【データを活用したまちづくり】</b> 】 <弘明寺リビングラボ>(南区) 4 【 <b>【誰もが百点満点！自分らしさを表現できる居場所作り】</b> 】 <KSG master>(南区) 5 【 <b>【リアルとバーチャルで夢を応援えだきんメタワールド】</b> 】 <えだきん×夢叶きゃらばん>(都筑区) 6 【 <b>【HOMMMOKU もくりプロジェクト】</b> 】 <HOMMOKU もくりプロジェクト実行委員会>(中区)
審査基準	1 創意工夫 ・住民等が持つ発想、方法などを生かしたアイデア、ユニークさ 2 意欲 ・自ら主体となって整備の推進に取り組む意欲 ・整備の実現に向けて、住民参加や提案の精度を高める活動に取り組む意欲 3 公共性 ・地域の課題やニーズの的確な把握、地域への貢献度

選考結果	
選考団体(委員講評順)	委員講評
<p>【提案名】            知ることで安心 子どもの遊び場と防災</p> <p>【提案グループ名】            ブルーベリーの丘 子どもと親が集い防災を考える会</p> <p>【得票数】            13 票</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害が増えている中、あえて斜面地を活用することは、不安や危険もあると思うが、斜面地は地域の中で見過ごされている場所でもあるので、みんなの拠り所となるための安全性の担保をしつつ、遊ぶことができる斜面地でしかできない空間づくりを提案してほしい。</li> <li>・住民参加型モニタリングは是非やってもらいたい。</li> <li>・提案場所が自治会館の隣なので、具体的に提案の検討を進めていくときには自治会館と併せて活用するイメージをしながらプランニングできるとよいと思う。</li> <li>・自治会の活動の中での課題などが、提案の検討を進めるプロセスの中で改善される機会になったら良いと思う。</li> <li>・安全性の担保は大切だと思う。近所の公園にはない活用の方法など、子どもたちの話を聞いて、安全で楽しい場所を作ってほしい。</li> <li>・崖が崩落しない安全性も大事だが、開放する場所としての安全性も担保できるようにしてもらいたい。実験的に試してみるとリアルな提案になると思う。</li> </ul>
<p>【提案名】            青葉台公園の多世代交流・多文化共生の拠点作り</p> <p>【提案グループ名】            キノコみらいハウス設置委員会</p> <p>【投票数】            14 票</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2次コンテストに向けてニーズを改めて把握していただき、空間づくりや運営方法、営業時間など具体的に検討してもらえればと思う。</li> <li>・課題意識は素晴らしいと感じた。外国人に関する課題などは今のメンバーだけでは届かない層がいると思うので、対象となる方にどの様にアプローチしていくのかを、2次コンテストまでに検討してもらえればと思う。また、ネットワークを作っていくことも必要になると思う。これからどの様になっていくか期待を抱かせる提案だった。頑張してほしい。</li> <li>・やりたい活動、ニーズは多くもっていると思うので、実現につなげていく役を作ってもらいながら頑張してほしい。</li> <li>・活動の取捨選択をしなければならぬ場面もあるかもしれないので、関係者含め早めにプランを詰めて進めていただければと思う。</li> <li>・チームワークの良さが掛け声や揃いの衣装に現れていた。その良さがまちの中に広がっていくように提案が進められることを期待している。</li> </ul>
<p>【提案名】            データを活用したまちづくり</p> <p>【提案グループ名】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問への回答やコミュニケーションが常にずれる印象があった。2次コンテストに向けた伴走支援で他者の視点が入ることにより、課題がクリアになるかもしれないので是非この期</li> </ul>

<p>弘明寺リビングラボ</p> <p><b>【得票数】</b> 5票</p>	<p>間を生かしてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までどのような質問があり、何を答えていたのか振り返ってほしい。コミュニケーションにギャップはあるものの、めげずにやり続ける意欲はすごい。まちのために何ができるか考えているのは良いことなので、リビングラボは置いておいて改めてシンプルに考えてみるのも良いかと思う。期待している。</li> <li>・データが根幹の提案で、データを入手できなければ始まらない中で、どの様なニーズがあるか、地域ニーズの把握をデータサイエンスとしてできていないことは課題と感じる。ニーズがないが必要なのであれば、どのように開拓していくかプログラムが必要である。</li> <li>・データの提供をしてもらうための信用を築くプロセスが必要である。データに強いというより、コンシェルジュになる方の活躍が期待される。データとコンシェルジュの2トップのリーダーがいるとうまく回りそう。期待している。</li> <li>・コミュニケーションでのギャップは気になるが、自分の経験や技術を地域に生かすという熱意は感じている。地域のニーズとのつながり、ニーズをとらえるアクションをしてほしい。2次コンテストまでに、実験的にニーズをとらえて、具体的なイメージを作ることが重要である。</li> <li>・チーム内で、やりたいことが共有されていないと感じた。データありきというのが前面にでていたが、そのデータを提供してもらうための信用が足りていないと感じた。2次コンテストまでに、グループで活動内容を共有してもらえたらと思う。「データ」よりも「健康づくり」を押し出す方がシンプルな提案になるのではと感じた。</li> </ul>
<p><b>【提案名】</b> 誰もが百点満点！自分らしさを表現できる居場所作り</p> <p><b>【提案グループ名】</b> KSG master</p> <p><b>【得票数】</b> 15票</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さをりは、誰でもできて簡単だということ、障がいがある方もない方も同じ空間で共存していける可能性が、最終PRでの発言からも感じられ、納得することができた。</li> <li>・小箱ショップを含め色々なところに目を向けられるのは、やはり今までいろいろなことを乗り越えてこられたからだろうと思うので、その利点を生かしてこれからも活動が続けてほしい。一方で障がいがある方とない方、それからメンタルが傷ついた方など様々な方が同じ空間に共にすることもあり得ると思うので、偏りなく場を運営するための心遣いや設備の工夫などを検討してほしい。</li> <li>・さをり織りによるまちづくり、さをり織りをテーマにしてまちをつくっていくという意気込みを聞くことができて、感銘を受けた。まちのどこに行ってもさをりが何かしら関わって</li> </ul>

	<p>いる、そんな小さなまちができたとしても素敵だと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さをりはつくるということだけでなく、働く場所にもなるし、それを使ってお金が循環していく場所でもあると思う。もつとさをりをキーにしたところでまちを元気にしていくプログラムのようなもの見えてくると、それは形になっていくのではないかなと思う。相当な時間を要する話かもしれないが、その出発点として今回の場所が形になっていくといいなと思った。</li> <li>・みなさんの活動の場合はまちの中にその居場所がある時点で社会的・地域的に意義があると思う。</li> <li>・居場所というのはみんなに居心地の良い訳ではなく、ある人たちにとってほっとできることや安全・安心であることも大事だと思う。現在関わっている人たちが安心できることを第一優先にしながら、その存在を地域に知ってもらい、その範疇の中で関わりが増えていくといったように、あまり急いで広げていくというよりは、みなさんのペースを大事にしてほしい。</li> <li>・地域の中で障がいがある方も生きていて、地域を考えること自体が自分たちのことであり別ごとでない、誇張して地域と言っているわけではないというある種の覚悟、思想をもっているところが良いと思った。</li> <li>・商店会に入っていけば自分たちが普段考えていなかったことを突きつけられること、色々なことをまわりに考えさせられることがあると思うが2次に向けてがんばってほしい。</li> <li>・提案書では伝わりきらなかった、さをりのもつ魅力や皆さんが持つ、さをりにより救われる話を聞いて感動した。小箱ショップなどで横のつながりも検討されていることだが、さをりの魅力で人を呼べるかもしれないという可能性も感じた。</li> </ul>
<p><b>【提案名】</b> リアルとバーチャルで夢を応援えだきんメタワールド</p> <p><b>【提案グループ名】</b> えだきん×夢叶きやらばん</p> <p><b>【得票数】</b> 16 票</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後の高校生からのコメントがよかった。地域の目がある中で子育てができること、リアルの良さとバーチャルの良さを掛け合わせてほしい。</li> <li>・バーチャルについて提案書では理解できなかったが、説明を聞いて参考になった。リアルの関係性も大切にして、地域に関わる方との関係性を作ってほしい。2次コンテストに向けて地域の方がかかわるきっかけを作っていただければと思う。</li> <li>・昨年から今年に向けて、実際に試してみたという話に迫力を感じた。バーチャルが理解できたかはわからないが、本気度は伝わってきた。SNS でまずは始めているということだがバーチャルもトライできるものがあれば試行錯誤をしてほし</li> </ul>

	<p>い。期待している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バーチャルとリアルの間 QR コードというのは具体的にイメージができた。実際に作っているパワーはすごい。孤独な時間にバーチャルを活用して他者とつながれることで癒しにもなると伝わってきた。発表の場がどのような機能になるか、精神的支えになる仕掛けが作れるか、2次ではどのような場になるのか楽しみにしている。</li> <li>・リアルの場の素晴らしさを感じた。商店街の他の店のことはよくわからなかったので、商店街全体をどのように盛り上げるのかもバーチャルについてのアイデアも2次コンテストでは聞きたい。</li> </ul>
<p>【提案名】 HOMMMOKU もくりプロジェクト</p> <p>【提案グループ名】 HOMMOKU もくりプロジェクト実行委員会</p> <p>【得票数】 15 票</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・畑があり、居場所があり、すてきな皆さんがいて、おいしいものが食べられるという、すでに実践されていることなので、それをさらに場を整えていくことだと受け止めている。その居場所に地域の方がなかなかたどりつけないということだったが、それがなぜなのか。畑を活用して一緒に畑の仕事をしてもらい、子どもでもできる野菜作りなど、そういったことを通じて近隣の方と顔なじみになることで、もっと知ってもらえる機会や広がっていくのではと思う。今度やることに対しての機能をもう少し見直して、カウンターをつくるのがいいのか、人が来やすくなるための仕組みとしてどのようなことが必要なのか少し考えていただくとまた説得力のある提案になると思う。</li> <li>・古井戸の水の活用や、外国の方と日本人が隣人同士である生活のギャップもおもしろいところなので、そういう点もこれから広めると良いと思う。</li> <li>・場所にたどり着きやすくなるということだと、過去の提案に面白いアイデアがあるのではないかと思う。たとえば道路に絵を描くことはできなくはないし、近所の民地の壁になにかサインを出すなどの整備を過去のグループは実現している。まち普請でなく、そのあとの活動の中でそのような活動も実施しているという、ある意味まちぐるみで取り組むほうが進められる活動・目的かもしれないので、そのような広がりに向かっていっても良いかと思う。</li> </ul>
<p>資料</p> <p>(資料 1) 令和 5 年度ヨコハマ市民まち普請事業 1 次コンテスト整備提案集</p>	